



NCJTA NEWSLETTER

北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association

<http://www.ncjta.org/>

第24号・2006年 2月発行

北加日本語教師会 2006年の春の例会

Sunday, March 5, 2006

San Francisco State University



会長の挨拶

言語と文化——文化理解再訪

南 雅彦

北加日本語教師会会員の皆様は、新年をどのようにお迎えになりましたか。私は年末を日本で、そして1月中旬をハワイで過ごすという結構あわただしい冬休みを過ごしました。まず日本ですが、帰るたびに新しいもの、また既存のものでもその改良や独創性に刺激を受けます。今回も大型量販電器店で見つけた「動物」・「お守り」・「食品サンプル（トロ、明太子、たこ焼き）型フラッシュドライブ（コンピューター情報を持ち運ぶためのメモリー）」の奇抜なアイデアにはびっくりしました。移動にレンタカーを使用したのですが、車を運転しても日本語で音声案内をしてくれるカーナビはすごいし、セルフ・サービスのガソリンスタンドが増加していることも驚きでした。とくに、ガソリン代を支払って、そのレシートをバーコード読み取り機を通すことで釣りが出てくることに、これまた驚嘆しました。もちろんパン屋さんで見られる新しいパンにも熱中しましたし、『フォー!』と意味不明の言葉を発するお笑い芸人レイザーラモンHGから『エロかついい・かわいい』路線に転換して成功した歌手の倅田來未まで、ほとんど『バカバカしく』感じながら、それでいてテレビ番組も夜遅くまでむさぼるように見ている『アホ』な自分を発見しました。

逆にハワイでは伝統的なポリネシア文化と言語を真面目に学ぶ機会に浴しました。『aloha（アロハ）』は『こんにちは、こんばんは、さようなら、愛しています、

愛』などの広い意味を持つ単語ですが、1500年以上も前にハワイ人の祖先がポリネシア諸島からハワイ諸島に渡って来て以来、方言としての類似性を今日も保っているようです。『愛』の意味ではサモアの『aloha』、タヒチの『aroha』、ハワイの『aloha』（ポリネシア語族では日本語・韓国語などのウラル・アルタイ語族と同様、/r/と/l/の区別なし）、挨拶としてはサモアの『talofa』とハワイの『aloha』は非常に似ているということを発見しました。

私はサンフランシスコ州立大学（SFSU）で教鞭を取る前は東海岸のボストン近郊に10年あまり住んでいました。もう10年近く前になりますが、サンフランシスコに転居していちばん最初に感じたのは日本語テレビ番組の豊富さでした。ボストンでは非常に限られた日本語番組しかありませんでしたし、日本語番組を見たいときにはビデオレンタルをしなければならなかったのが、当初はとても心地よかったものです。でも、しばらくすると日本で見るとの違いが気になって仕方がないという状況に陥りました。番組それ自体は、そのほとんどが日本から輸入したものなので、2、3週間遅れに過ぎないとか、ほんの少し古い場合がほとんどなのに、何か、どこかが違うのです。ほどなくして気がついたのは、番組の合間に挿入される宣伝・広告の類いが古色蒼然としていたことでした。そうしたフレームの中でテレビ番組を見ると何もかもが古く見えてしまうのです。これは、2、3週間遅れとか、2、3か月遅れとかという単位ではなく、2、3年でも足りず、もしかしたら20年とか30年というくらい以前のものではないかと思ってしまうほどでした。たとえば、日本ではもう過去の人というか、今では名前も聞かなくなった（演歌）歌手の歌謡ショーのお知らせを耳にすることがありますが、そうしたことが具体的な理由ではないかと思うようになりました。また一方で、日本で活躍している演歌歌手がカリフォルニアの日系人グル

ープに歌を披露した際、「ここには日本ではもう忘れられてしまった懐かしい日本の雰囲気を感じ、日本に帰ってもここで感じた気持ちを忘れずがんばりたい」というコメントを残しているのを読んだことがあります。とにかく、何十年か前、いや10年前ならいざ知らず、遠隔地の情報が瞬時に伝わるインターネットが発達した現代社会において、こうした現象がなぜ継続しているのでしょうか。

私はSFSUで大学院レベルの「言語と文化」セミナーという社会言語学の講座を担当していますが、*Center of Innovation* (革新の中心) という概念を用いて上記の現象を説明しています。たとえば、日系人という移民集団では自らが持ち込んだ文化を結晶化するため、その心理的文化が長く(時には世代を超えて)継承される傾向があります。ところが、自国、すなわち日本の文化は時の流れに沿って変化してゆきます。言い換えれば、日本での「自国文化の変化のスピード」と移民が持ち込んだ「自国文化の変化のスピード」にはギャップがあるわけで、前者の方が後者よりもずっと早いわけです。ハワイでは、サンフランシスコより日本語がずっと幅を利かせていて、「日刊サン」という無料新聞まで出ているのですが、そこに元「マヒナスターズ」(若い読者の方々にはわからないかもしれませんが)のギター・ボーカル日高利昭さんという人が女性ボーカルとペアを組んで「サナレイ」というグループとして参加・制作したNew CDアルバムの広告が出ていました。その「新しい」CDには『北上夜曲』『寒い朝』『誰よりも君を愛す』といった今の若い世代は聞いたこともないような、しかしながら、ある年齢以上の人にはとても懐かしい曲が収録されているのですが、ハワイへの日本人移民にとってはこうした曲は文化の一部となっているのでしょうか。

上述の「革新の中心」という概念を説明するのに言葉を例としてあげると、(アメリカ人に叱られそうですが)アメリカ英語はイギリス英語よりシェークスピア時代の英語に近く、カナダで使用されているフランス語はフランスのフランス語より古いのも同じ概念で説明が可能です。かつての文化の中心地から同心円的に、異なった方言形が分布している状態、すなわち周囲分布を民俗学者、柳田国男は「蝸牛考」と命名し「方言圏論」を提唱しました。「方言圏論」を分かりやすく説明すると、語・音などを含む方言の要素が文化的中心地を中心に同心円状に分布する場合、外側から内側へ向けて順次変化してきたと推定されるとする方言分布の仮説の一つで、柳田は『かたつむり(蝸牛)』の方言が東北地方の北部と九州の西部では『ナメクジ』、東北と九州で『ツブリ』、関東や四国で『カタツムリ』、中部や四国などで『マイマイ』、そして京都を中心とする近畿地方では『デデムシ(デンデンムシ)』のように分布することを発見し、こうした事実から京都での蝸牛の方言が『ナメクジ>ツブリー>カタツムリー>マイマイ>

デデムシ』のように変化し、それぞれが東西または南北へ放射されたと推定したわけです。これは、言語と文化を理解する上で非常に興味深い概念だと思います。(ちなみに、『バカ』と『アホ』はどちらが古いか考えてみてください。冒頭の『バカバカしい』とか『バカとハサミは使えよう』とは言えても『アホ、アホしい』とか『アホとハサミは使えよう』とは関西でも通常、言わないのは何故でしょうか。これがヒントになります)。

さて、北加日本語教師会では秋、春の例会を通じて「Popular Cultureを含めて、日本文化をどう紹介するか」を本年度のトピックとして取り上げることを前回お伝えしました。冒頭のトロ・明太子・たこ焼き型フラッシュドライブ、レイザーラモンHG、『エロ格好いい・かわいい』パフォーマンスの倭田來未はほんの一時の流行で瞬く間に泡沫として消えてしまうのかもしれませんが。もしかしたら、皆さんがこの記事をお読みになる頃にはサンフランシスコやハワイでは流行っているけれど、日本では話題にも上らなくなっているのかもしれませんが。でもハワイのボーカル・ペア「サナレイ」のようにPopular Cultureの中にも、どこかでずっと残ってゆくものもあるでしょう。日本語教師という私たちの仕事は、日本語学習者に日本文化を知ってもらうきっかけを作るという大切な役割を担っています。私たちは特異なものに目を奪われがちですが、こうしたPopular Cultureの中からも日本とアメリカの文化と考え方の構造や方向性を探ることは可能ではないかと考えられますし、文化を超えた人間同士の心のつながりを感じることも不可能ではないでしょう。こうした意味でも3月4日(土)、5日(日)にSFSUで開催されるInternational Conference on Practical Linguistics of Japanese (略称ICPLJ: 日本語実用言語学国際学会)の二日目に合流して開催される春の例会には是非ご出席ください。日曜日の午前には、Association of Teachers of Japanese (略称ATJ)の現会長でいらっしゃるマグロイン・花岡直美先生に談話レベルでの「ていうか」という表現をトピックとして基調講演をお願いしています。皆様もご存知のように、ICPLJの目的は「現場で日本語を教えておられる先生方と、日本語言語学の最先端で活発な研究活動しておられる研究者の方々に有意義な交流の機会を提供し、この二つの分野の間のかげ橋となる」ことです。花岡先生の基調講演のトピックは、談話レベルの分析が現場の日本語教育にどのように役立たせることができるのかを考えてみる絶好の機会だと思います。講演の後、花岡先生には正午からは北加日本語教師会の皆様と共に昼食、それに引き続いて日本文化に関連してお話くださるようお願いしていますので、皆様、ご期待ください。



2005年 秋の例会報告 :

南 雅彦

NCJTA秋の例会は、11月12日（土）午後2時10分から4時までFLANCの一つのセッションとして、北加日本語教師会の現会長・San Francisco State Universityの南雅彦先生の司会で「日本文化、Popular Cultureをどう紹介するか」をトピックとして行われました。カレッジ・レベル代表として北加日本語教師会の前会長・UC Davisの榊原晴子先生、UC Berkeleyの尾本康裕先生、コミュニティー・カレッジ・レベル代表としてCity College of San Franciscoのグラント文子先生、公立高校代表としてDavis High Schoolの尚子McHale先生、私立高校代表としてWoodside Priory Schoolの田中理恵先生による発表が順次行われました。発表自体も、たとえば、田中先生はパワーポイントを使っての日本の伝統的行事の紹介、McHale先生はDavis High Schoolの高校生が日本を訪れた先々で撮った写真をポスターとして紹介されるなど多様でしたが、異なる年齢層、異なる教育環境の下で日本文化をどのように伝えているのかが非常に参考になり、とても興味深い発表でした。個々の先生方の発表に引き続いて、参加者全員でパネル・ディスカッションが活発に行われ、大幅に予定時間を超過するほど白熱しました。

2005年 春の役員会報告

(書記：榊原)

春の役員会は年1月21日（土）午後12時半から3時までサンフランシスコ州立大学で行われました。

出席者：南、モールス、飯村、島邊、斉藤、今瀬、榊原、田中

1. 非営利団体登録手続きの件（田中）：弁護士 Steve Doi氏により1月20日付けで北加日本語教師会はSecretary of Stateに非営利団体（NPO）として登録されました。
2. 春の例会の件（南）： 3/4（土）と3/5（日）にSF州大で開催される国際実用言語学会の二日目、日曜日に前年度にならって合流することに決定しました。その日の主題講演者の謝礼を北加日本語教師会で受け持つ事に合意しました。
3. 日米会スピーチコンテスト（モールス、飯村）：教育者の意向を反映したコンテスト運営をしてほしいが、日米会では従来のやり方を重視する傾向があります。島邊先生が日米会の中で新しく、今後のスピーチコンテストの方向性を考える委員に選ばれたので、パイプ役になって頂ける事を期待します。
4. 日本語能力試験の事（南）：SF州大での能力試験は500人近い参加者がありました。

5. 日米タイムズの記事（榊原）：好評につき続行することになりました。今年の5月ごろまで執筆者が決まっています。その後の執筆者を募集中です。



言葉の窓 第七回

日本語クラスでの俳句のレッスン

厚子 モールス

The College Preparatory School

「どんな言葉にもリズムがあるんですよ。詩を読みながら、体で表現して、英語のリズムを覚えましょう。はい、みんな、Big Tree Big Tree Big Tall Tree・・・」アメリカにたばかりの頃、成人学校のESLのクラスで英語のリズムと言う楽しい授業を取ったことがあります。私は日本語を教えるようになって、この言葉のリズムの授業を私の学生にも出来ないものかと思うようになり、現在、俳句のレッスンを4と5年生のクラスでしています。

俳句を教えようと思ったのは、私自身が俳句が好きであったことでもあります。五七五のリズムは俳句や和歌の基本リズムでもありますし、歌舞伎や浄瑠璃等、江戸時代の戯作者がこのリズムを使って作品を書いていて、私は言語学の専門家ではないのですが、この五七五のリズムが日本語の基本的なリズムではないかと思ったからです。そして、読むだけではなく、俳句を書かせてみようと思いました。が、始めてみるまでは、学生に日本語で俳句が書けるかどうか疑心暗鬼でした。それでも、学生たちは、右手で辞書を引き、左手で指を折りながら、親ばかに聞こえるかもしれませんが、素晴らしい俳句を書いてくれました。この場をお借りしていくつか紹介させていただきます。

春の風、たくさんともだち、うららかな
ローレン・スタート class of 99

愛います。大きい空に、ヒバリ歌う
エイサ・ソルウェイ class of 00

パスタ沸騰、食器きらめき、キッチン激怒
ジョン・カウパースワイト class of 00

夜半の火、洞窟おどる、消えうせる
エレン・チョング class of 02

海岸の、風やわらく、波やさし
アンジェリ・シャストリ class of 03

星の空、心一つに、恋人どうし
ジュリア・リー class of 03

俳句書け、俳句書けない、俳句バカ
マイケル・フィッシャー class of 05



2006年 Workshop / イベント

学会のお知らせ

1) Performing Language: International Conference on Drama and Theatre in Second Language Education
Feb. 3-5, 2006

University of Victoria, Victoria, British Columbia, CANADA

2) INTERNATIONAL ASSOCIATION OF ASIAN STUDIES
National Conference

February 13-18, 2006

Baton Rouge, Louisiana

<http://www.naaas.org/>

3) CATJ 18th Annual Conference
March 4th(Sat) - March 5th(Sun), 2006

University of Michigan, Ann Arbor

The 5 C's of the National Standards for Teaching Japanese

<http://www.lsa.umich.edu/asian/japanese/catj/index.html>

4) 21st Southeastern Association of Teachers of Japanese (SEATJ)

March 18th (Sat.) and 19th (Sun), 2006

Washington and Lee University, in Lexington, Virginia

5) FIFTH INTERNATIONAL CONFERENCE ON PRACTICAL LINGUISTICS OF JAPANESE (ICPLJ)

March 4 & 5, 2006

The College of Humanities, San Francisco State University

<http://www.sfsu.edu/~japanese/conference/>

6) The Association for Asian Studies Conference, which will be held in San Francisco

April 6-9, 2006

<http://www.aasianst.org/2006Workshop.htm>

ATJのSIG (Special Interest Groups) 関係の発表が4月6日の午後に予定されています。また、メンバーのための会議が4月8日に予定されています。詳細については上記のホームページをご参照ください。

7) NCOLCTL 2006

The Ninth Annual Meeting of the National Council of Less Commonly Taught Languages (NCOLCTL)

"Expanding the LCTL Capacities in the United States."

April 28-30, 2006

Madison, WI (with a pre-conference workshop scheduled for April 27th).

8) Pragmatics in the CJK Classroom: The State of the Art
June 5-7, 2006 -- Honolulu, HI
The University of Hawai'i-Manoa National Resource Center East Asia in conjunction with the National Foreign Language Resource Center at the University of Hawai'i-Manoa
<http://www.hawaii.edu/nrcea/CJKCallforPapers.htm>

9) International Conference on Japanese Language Education (2006 ICJLE)

August 5-6, 2006

Columbia University, New York

"Japanese Language Education: Entering a New Age"

<http://www.japaneseteaching.org/icjle/>

*今年のATJはAASとではなくこのICJLEとの合同会議となります。ご注意ください。詳しくは上記のホームページをご参照ください。



お知らせ

北加日本語教師会がNPO(非営利団体)に

2005年の春の例会でも報告がありましたが、この度、カリフォルニア州の非営利団体としての登録の手続きをいたしましたので、報告させていただきます。これにより公の組織となり、さらに活動の輪を広げていきたいと思っております。

北加日本語教師会2006年春の例会のお知らせ



Spring 2006 Conference:

新しい方、しばらくお休みの方を是非お誘いの上、いらして下さい。

3月5日(日曜) Sunday, March 5, 1:15-2:15 p.m.

場所: サンフランシスコ州立大学

San Francisco State University

行き方、校内図はこのサイトへどうぞ。

<http://www.sfsu.edu/~sfsumap/>

午前10時45分から11時45分 HUM133

主題講演 : マグロイン・花岡直美先生

12時正午から午後1時

マグロイン・花岡直美先生を囲んでの昼食

午後1時15分から2時15分
NCJTA 春の例会

メールリストの活用について



会では、メールリストの活用を開始しております。春と秋のニュースレターの間で、時間的にすぐ流した方がよい例えば、日本文化に関するプレゼンテーションやコンサートなどを選んでお知らせや、例会の日時の確認のお知らせやニュースレターの記事募集などを予定しています。ただ、意見交換の目的では使用できませんのでご了承下さい。しばらくは、こちらに確認されているアドレスの整理をしていかななくてはなりませんので、どうぞ御協力下さい。担当者は尾本先生です。メールが届いていないという方は「webmaster@viewedo.com」までお手数ですがメールをお出し下さい。



先生の紹介欄

内間朱美先生の紹介

1) お名前を教えてください。

内間Decena朱美といいます。「美」は旧字のむずかしい字なんです、ないことが多いので略字になっていますね。

2) 教えている学校名、町を教えてください。

たくさん、あるんですが・・・。

City College---S.F.

S.F.State University—S.F.

Laney College—Oakland

Soko Gakuen (Associate Coordinator) —S.F.

3) 日本語教師はいつから？

1960年代後半でしたが、在Philippine マニラ日本大使館インフォメーションセンターに勤務しておりました。1970年の日本万博に向けて、マニラでも日本語熱が高まったんです。その時、教えてくれといわれて、センターで日本語を教えだしたのが始まりです。

4) ご趣味は？

へたの横好き・・・実は、声楽です。ミュージカルからオペラまで・・・。

5) 日本の出身地は？

東京都中野区です。

6) アメリカに来てから何年ですか？

1973年に来ました。

7) 仕事について、なにか一言お願いします。

Soko Gakuenでは Associate Coordinatorを10年ぐらいいて Administration に携わっています。Sokoは、対象は高校生から一般ですが、プロフェッショナルが多いですね。コンピューター、ビジネス関係ですか。クラスは小人数制で、5人から19人までです。Non-profitなので、授業料が、格安です。教師としては、とても教えやすいです。いい所ですよ。

わたしの今のチャレンジは、他の大学では学生数がとても多いところが多いので、大きいクラスで、どういう風に効果的に教えていくかがすごく大きいチャレンジですね。

8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。

日本に年に2回、帰っています。母の介護もありますので。今回、帰ったとき、SFの空港で、ANAの職員に「先生！」って声を掛けられました。「先生のビジネスジャパニーズのクラスのおかげでこの仕事が取れたんです」っていうんですよ。ニコニコして。そう言う瞬間が教師していてよかったなって、一番うれしいときですね。

NCJTAには、土曜日に仕事をしているときもありますので、毎回は出られないのですが、出られるときは、みなさまのいろいろな教え方など伺えて、とても楽しく思っています。私たちのしごとは本当にnever-ending project ですよ。

須田恭子先生の紹介

1) お名前を教えてください。

須田恭子と申します。

2) 教えている学校名、町を教えてください。

University of San Francisco

サンフランシスコにある私立の大学です。

3) 日本語教師はいつから？

1990年ごろからです。サンフランシスコ州立大学の修士の学生だった時に、日本語のクラスのTAを経験しその後、桑港学園で授業を受け持つことになりました。

4) ご趣味は？

悲しいことに「趣味は～です」と言えるものはありません。ちょこちょこ何にでも手をだすのですが、趣味レ

ベルまで到達できません。一応学生時代にテニスクラブに入っていましたので、テニスは大好きです。

5) 日本の出身地は？

七夕で有名な神奈川県平塚市で生まれました。小学校の低学年から栃木県南部の小山市で育ちました。

6) アメリカに来てから何年ですか？

1983年6月にアメリカに来ました。

7) 仕事について、なにか一言お願いします。

ずっと前、私がまだ修士の学生だった頃、ある英語教授法の先生が「言語を教えるのは舞台上で演技するのと同じだ」と言われました。彼のその言葉と茶道の心得「一期一会」を結びつけて「これぞ私の最初で最後の舞台（授業）、よくぞ見に来てくれた」という気持ちで一つ一つの授業に臨むように心がけています。（別に役者をきどっているわけではないのですが。）もちろん「いいアクティビティじゃなかった！」「私が喋りすぎた！」などと落ち込む日も多いのですが、少なくともこのような気持ちで授業に臨むと、何か勇気と力が湧いてきて楽しい授業ができそうな気になるのです。日本語を長く教えていますが、今だに失敗、反省、立ち直りの繰り返しです。ただ、バイタリティーだけは失わないように心がけています。

8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。

最近、北加日本語教師会にあまり出席することができなくて残念に思っていたのですが、この様にインタビューをお引き受けしましたので、今後はなるべく出席したいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

春学期が始まり、会員の皆様、諸先生方には、お忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。今回のニュースレターも日本語教育に関する話題を充実させました。今後とも、会員の皆様のご意見、ご投稿をスタッフ一同心からお待ち申し上げております。どうかお気軽にご意見、ご質問、ご感想等を、南もしくは田中までお送りください。

南：mminami@sfsu.edu

田中：manami_t@ix.netcom.com



NCJTA

北加日本語教師会連絡先

Officers

<事務局>

<http://www.ncjta.org/>

NCJTA. c/o Masahiko Minami

Department of Foreign Languages

サンフランシスコ州立大学 San Francisco State University

1600 Holloway Avenue

San Francisco, CA 94132

(415) 338-7451

<http://userwww.sfsu.edu/~mminami/>

<役員>

会長： Masahiko Minami 南雅彦 (同上)

副会長： Ikuko Tomita 富田育子

Foothill College

Tel:(650) 949-7043

E-mail:tomitaikuko@foothill.edu

書記： Haruko Sakakibara 榊原晴子

Dept. of East Asian Language and Literature,

University of California, Davis

Davis, CA, 95616-8560

Tel:(530) 752-4129 FAX: (530)-752-8630

E-mail: hosakakibara@ucdavis.edu

会計： Mayumi Saito 斎藤真由美

2105 Saratoga Place, Davis, CA 95616

E-mail:msaito@ucdavis.edu

フランク連絡員/コミュニティーカレッジ代表兼任:

Yoko Clark 芳子クラーク

CSU Hayward

Tel:(510) 885-3229

E-mail:yokosclark@yahoo.com

ニュースレター編集委員：

Manami Tanaka 田中真奈美

Tel:(415) 387-2793

E-mail:manami_t@ix.netcom.com

<各レベル代表>

小学校：

Hiroko Iimura 飯村弘子

Pacific Academy Nomura School

Tel:(510)528-1727

E-mail:hiimura@pacificacademy.com

中学校：

Hiroshi Imase 今瀬博

Odyssey School

Tel:(650)548-1500

E-mail:hitoimase@yahoo.co.jp

高校代表：

Atsuko Morse モールス厚子

The College Preparatory School
Tel:(510-652-0111)
E-mail:ahmorse@aol.com

学園代表 :

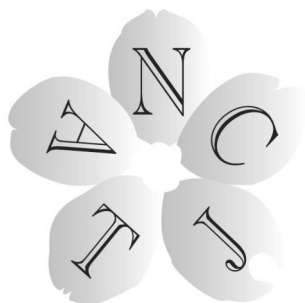
Mikiko Shimabe 島邊美紀子
San Jose Betsuin Lang School
Tel:(408) 227-3371
E-mail:shimabe@attglobal.net

コミュニティーカレッジ代表

Yoko Clark 芳子クラーク
CSU Hayward
Tel:(510) 885-3229

大学代表 :

Yasuhiro Omoto 尾本康裕
UC Berkeley
Tel:(510) 643-0783
E-mail: yomoto@niongoweb.com
<http://www.nihongoweb.com>



Northern California Japanese Teachers' Association